

狂犬病は世界各地で発生しています

世界における発生状況

現在、世界で狂犬病が発生していない国は、日本、ニュージーランド、スウェーデン、オランダ等のごく限られた国のみで、ほぼ世界各国で発生しています。特に、インド、タイ、メキシコ、アフリカ諸国等では、激しい流行が続いています。

イギリスの発生例

47年間狂犬病の発生がなかったイギリスでは、1969年、ドイツからのたった1頭の輸入犬が狂犬病を持ち込み発生、国中が大混乱となり、大きな被害となりました。

日本における発生状況

日本では昭和31年以後（人では昭和30年）、狂犬病は発生していません。けれども、国際交流の盛んな現代社会においては、いつ、狂犬病が網の目をくぐり抜けて日本に侵入してきても全く不思議でない状況です。

万が一の発生時にそなえて

万が一の発生時に、大流行を防ぐために、以下の2つがとても大切で、法律で義務づけられています。

- ① 犬の登録をすることで、犬の現状を常に把握しておく。（登録は犬の生涯1回です）
- ② 狂犬病予防注射を必ず毎年1回接種して、犬に免疫力をつけておく。

なお、登録をすると鑑札が、注射を受けると注射済票が交付されます。これらは必ず犬に着けておかなければなりません。

動物における狂犬病発生状況

1992年版FAO-OIE-WHO Year Book

- 高い頻度で発生
- 地方病的に発生
- 散発的、例外的発生
- 発生状況不明
- '92に発生がない
- 農林水産大臣が指定する狂犬病洗浄地域



世界の狂犬病の分布図



和歌山県

犬やねこを飼う前に考えていただきたいこと

犬やねこを飼うことはすばらしいことです。「こころのゆとり」や「命の尊さ」が社会の中で特に叫ばれる昨今、犬やねこと共に暮らし、ふれあうことで「心の豊かさや潤い」が得られるとして、コンパニオンアニマル（伴侶動物）とも呼ばれています。

しかし、飼うということは、同時に飼い主としての責任が伴うことでもあります。飼い始める前に、以下のことを家族全員でよく検討して下さい。

- 1 犬やねこは10年以上生きてますが、その間変わらぬ愛情を持って、きちんと飼い続けることができますか？
- 2 あなたの住まいは、犬やねこが飼えますか？
周囲の環境はどうですか？
- 3 毎日の食費だけでなく、病気をしたときの治療費、去勢・避妊手術などの費用を負担できますか？
- 4 万が一、犬やねこが近所に迷惑をかけたときなどは、責任をとるという自覚がありますか？
- 5 家族の中に、一人でも犬やねこを嫌いな人はいませんか？
- 6 将来のことは考えていますか？
- 7 子供達の要求に押しきられていませんか？

